

令和3年度 第2回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日時 令和4年3月18日（金）書面開催
2. 出席状況 委員10名（川染会長、明吉委員、江頭委員、遠藤委員、小須田委員、小林委員、小山委員、泉水委員、橋本委員、服部委員）
事務局5名（文化振興課長、文化振興係4名）
3. 傍聴人 書面開催のため傍聴人なし
4. 議題
 - 1 令和3年度文化芸術事業等の実施状況について（報告）
 - 2 生涯学習振興補助金（令和4年度実施分）の審査結果について（報告）
 - 3 文化芸術について（意見交換）
 - 4 その他
5. 会議資料
 - 資料1 令和3年度文化芸術事業等の実施状況について
 - 資料2 生涯学習振興補助金（令和4年度実施分）の審査結果について
 - 資料3 文化芸術について

【会議要旨】

1 令和3年度文化芸術事業等の実施状況について

○委員

コロナ禍において感染防止に最大の配慮をしながら事業を実施されたご苦勞を評価したい。文化芸術顕彰受賞者のコラボ企画は好評だった。

○委員

在野（有名人でない方）の方で、伝統技能（商業ペースではなく、純職工等）に優れた方の扱い等を知りたい。

△事務局

市では、伝統技能や伝統文化で活躍されている方については、日頃から新聞やインターネットで情報収集をしています。顕著な功績を取めた方は、表彰制度などにより広く周知しています。

○委員

コロナ禍が続き、文化芸術事業が規模は縮小されている面もあるが実施されていて良かった。ホールの利用状況も以前に戻りつつあるので、引き続き感染対策に万全を期して運営してほしい。

「文化祭」「さくら文芸祭」の表彰式の中止は致し方ないが、作品に対しての表彰はあったのかと疑問に感じた。

「やまとこども伝統文化塾」の子どもたちの成果等の記録動画が作成されたようだが、今後どのように活用されるのか。今後の活動につながるような活用にしてほしい。

△事務局

「文化祭」と「さくら文芸祭」ともに作品の審査を経て入賞作品を選定し、ホームページや広報誌などで周知しました。入賞者には、表彰状と記念品の贈呈をしました。

「やまとこども伝統文化塾」については、3月11日～18日に大和市スポーツセンターで記録映像を使い伝統文化塾の紹介展示を行いました。今後も伝統文化塾の参加者が増えるように、動画等を活用しながらPRしていきたいと思います。

○委員

異議はない。特に文化芸術顕彰については良い選択だと感じた。その表彰式からコラボレーションが生まれるなど、更なる活性化が期待できる。また、コロナ禍での取り組みが難しい中、少しずつホールの稼働率が回復してきている。依然としてコロナについては注視が必要だが、感染対策を講じた上でのホールの有効活用を推進してはどうか。

△事務局

コロナ禍において、ホールのオンライン環境の整備を行ったほか、ギャラリーで初の試みとして、オンライン展覧会「あなたの作る展覧会」を実施しました。

○委員

困難な状況の中で対応された内容につき評価する。

○委員

今後もフィールドワークを通して、調査、研究等を行っていくことは重要だ。国際化や情報化の進展、更に長寿社会の到来などにより、持続可能な文化事業の推進が求められていることから、多種多様の調査を行い、精査し、第4期文化芸術振興基本計画に反映していくことが必要と考える。

ホールの運営状況がコロナ禍前に戻りつつあることは、市民の文化活動が活発化しつつあると思うので安堵している。

○委員

写真等を掲載して見やすい報告書になっていてよいと思う。

コロナ禍でのリアル開催が難しいものについては、ウェブやYouTubeの活用などもご検討してほしい。

それぞれの事業について、第3期文化芸術振興基本計画の施策目標、方策、実施主体等との関係性がわかるように表示すると、よりわかりやすくなるのではないか。

○委員

多くの表彰式が中止されたが、受賞者の発表はどのようにしたか。伝統文化塾の動画や青山学院の学生の制作した発表用資料は一般の市民が閲覧できるか。

△事務局

受賞者の発表は広報誌、タウンニュースやホームページで行いました。また、展示会を実施した事業については会場でも入賞作品のお披露目をしました。

伝統文化塾の活動動画は、大和市スポーツセンターで紹介展示を行った際に活用したほか、今後上映会を予定しています。また、青山学院大学の学生が作成した資料については、公開していませんが、若者からの貴重な意見として、今後の文化芸術施策の参考にしたいと思います。

○委員

文化芸術顕彰で「笹倉鉄平版画ミュージアム」で未来賞の2人の若い作家とのコラボが実現したことは素晴らしいことである。このような試みはその年だけではなく、継続され、今までの受賞者、受賞団体とのコラボが実現すると良いと思う。

大和市と青山学院大学の協定に基づく活動をもっと広げられると良い。その理由は様々な市の企画への参加者に大学生等の年代の人が少ないからである。他の大学との協定も検討しても良いかもしれないが、まず青山学院大学との協定の実現を広め深める努力をするべきである。

ホールの運営状況のうち利用率が元に戻りつつあるのは歓迎すべきである。コロナ対策の努力は大変であり、その実現を感謝したい。

市民団体の活動の活発化を考えても良いと思う。

○委員

コロナ禍だが、少しずつ、コロナ禍の前に文化振興は戻りつつあると感じる。こういう時代だからこそ「文化」が大切であり、やり続けることが大切。青山学院大学出張講座素晴らしい。県外の若い

人から見た大和市、地元では気づかない新鮮な率直な感想だと思う。参考になる。

2 生涯学習振興補助金（令和4年度実施分）の審査結果について

○委員

今年度の振興補助金要望団体が少なかったが、次年度は要望団体の増加を望む。

○委員

「事業内容」「内定理由」共に納得いく内容で3団体ともいい文化事業だと思う。

○委員

特に異議はない。ただ、少し感じたことがある。

まず選定された団体が行っている活動のうち、内容がすぐにわかるのはくやまと子どもミュージカル>だが、他の2団体についてはもう少し詳細が知りたいという気がする。選考委員会に於いては各団体に関する詳細な資料が添付されていたものと思う。この場ではそこまで詳細なものは必要はないと思うが、ある程度団体の顔が見える資料があると助かる。特に<GSP-Gotsu's 私季音 Project>に関しては団体名からその活動を想像するのが難しいと思う。但し、内定理由を読むと「独自性」や「芸術性」等の言葉が散見されるので、力のある団体であることは想像に難くない。また、選定された団体が音楽系のものばかりだが、他の芸術分野からの要望がなかったのか否かも少し気になる。

△事務局

今年度は3団体以外からは要望がありませんでした。毎年、生涯学習振興補助金の募集時期に、市内文化芸術団体へのチラシを送付や市内施設に配架をしています。様々な分野の文化芸術団体に補助金を活用できるように周知していきます。

【参考】

補助年度	内定団体
R4年度	GSP-Gotsu's 私季音 Project-【音楽】(250,000円)、くやまと子どもミュージカル【ミュージカル】(250,000円)、広がれ！音の輪プロジェクト【音楽】(250,000円)
R3年度	大和市音楽家協会【音楽】(450,000円)、神奈川県名流舞踊の会【舞踊】(200,000円)、BURN OUT 実行委員会【ダンス】(350,000円)
R元年度	大和地区日中友好協会【国際】(285,000円)、ユース・ウインド・オーケストラ【音楽】(555,500円)

※新型コロナウイルスの影響により、令和2年度の内定事業は令和3年度に繰り越しました。

○委員

異議なし。

○委員

金額を25万円にして、結果として3団体から申請があり、補助金の使い道が明確であることが評価された点、結果として良かったと思う。令和4年に無事実施され、これらが前例となって補助金が的確に使用されることを期待する。

○委員

私季コンサート、ふたつのファミリーコンサート、是非鑑賞させてほしい。色々な団体を知りたい。

3 文化芸術について

○委員

大和市の文化芸術事業は、各団体が独自の催し物を行うか市の文化祭に個人で参加する等、様々に行われているが、現在はこれらの横のつながりがなく、個別に活動している感がある。大和市の文化資源をより効果的に利用して発展させるために年間を通して「大和市文化芸術祭」等を行い、市の様々な団体の催し物や活動をこの冠の元にひとまとめにしていけるような試みはどうか。真の意味での市民参加が可能な「大和市文化祭フェスティバル」を作るために、色々な団体がコラボやジョイントに

よりひとつになって企画から運営までできる会議体の確立を期待する。

○委員

「資料1」を見て、いろいろな市の文化事業に作品を出品したりホールに足を運んだりする市民の方々多数いらっしゃる反面、全く参加しない市民もたくさんいると常々感じている。

「文化」は「心の糧」なので、コロナ禍だけではなく、どんな状況になっても文化を発信したり受け取ったり（感受）できる体制をさらに構築することが大切だと感じる。

○委員

第4期計画の改定に向けた審議を行うに当たり、現在までの大和市の文化芸術振興に関する取り組みの歴史を改めて学習する必要があるだろう。そのための勉強会を開催するのもよいのではないかと考える。また、以前から提案していることの繰り返しにはなるが、近隣の教育機関との提携をより広げ、より強固にしていく必要があるのではないかと思う。大学を始めとする教育機関は施設というハード面もさることながら、教職員や学生といった人的資源を豊富抱えている。それらソフトウェアを大和市の市民のために活用出来れば、お互いにメリットがあるのではないか。

私ごとで大変恐縮だが、私が勤務する昭和音楽大学は、浦安音楽ホール、カルッツかわさき、秋川きららホール、川崎市アートセンター等と提携している。それらの施設を活用して、生涯学習を基本とした教員による講座やレクチャーコンサート等を開催し、大変好評を得ている。このコロナ禍で中止に追い込まれた催しもあったが、ここにきて新たな企画も検討されている。既に青山学院大学とは提携されているようだが、市民のニーズに合わせ、更に多様性に富んだ内容の催しを市民に提供できるのではないかと考える。

最後に、今後の審議会の運営方法ではあるが、対面とオンラインを併用する形での開催を提案する。今やオンライン会議は定番となった。zoomを利用した会議は日常的に行われるようになり、距離を感じさせない程品質も向上してきた。コロナの収束が見えない中、更に書面による審議会の開催というのは限界を迎えているように思う。例えば画面上であっても、お互いの顔が見える会議の開催を強く要望する。

○委員

「地元由来の伝統文化の発掘とその伝承体制の確立」

現在、上和田薬王院双盤念仏が知られているが、これに類する地元由来の芸能があるのではないのか。それら発掘し紹介するとともに、それを伝承していく仕組みを築く必要があるように思う。

「文化芸術の各分野・関連団体（組織）をまたいだ交流の活性化」

横の交流を活発にすることでこれまでにない展示や発表が生まれるような気がする。例えば、今回紹介のあった「桜ヶ丘文化散歩道・落語会 2022」や、つる舞の里と中央林間図書館によるコラボ企画などはその一例ではないか。また、1枚の絵画を取り上げそれからイメージされる音楽（楽器演奏）を合わせる等、厚みのある表現に繋がり多くの人にアピールすることが可能になるように思う。

○委員

「今後の大和市の文化芸術振興について」

大和市文化芸術振興基本計画の施策目標に「文化芸術の振興を牽引する担い手を育てる」とある。文化の薫る活力のある郷土「やまと」を構築していくためには、次代を担う人々の育成が重要だと思う。持続可能な人材育成事業の在り方を検討し、計画に反映させることが重要だと考える。

○委員

1の事業実施状況とも関連するが、文化芸術振興基本計画の進捗状況が分かるような資料の提供を望む。

社会情勢の変化を踏まえて「リモート」や「共生」などの視点を取り入れてみてほしいと思う。

△事務局

計画の進捗状況につきましては、次年度の第1回目の審議会で報告いたします。

○委員

未だ文化芸術事業の全貌を把握できておらず、具体的に意見を述べるできない。今後の審議会を通して理解を深めたうえで、愚見申し上げる機会があれば幸いだ。今回の資料1は文化芸術事業の概要をわかりやすく伝えていて助かった。

○委員

コロナ後、人々の生活形態は確実に変わると思う。市民の出勤形態も変わり、自宅での仕事も増えるであろう。その現実の生活の中でいかに芸術と関わり、文化を創造していくかは重要な個人的レベルでの課題であろう。更に人と人との関係は、今2メートルの間隔をあけている。つまり空間的な距離を持って人間関係を造らなくてはならない。複数の人間による創造活動の機会が無くなって、文化創造が難しくなっている。「大和市」の住人であることをどのように自覚するか、「大和市」を本当の意味で知ること、歴史、地形、自然環境、ここの所自然災害が多発しているの、水の流れの認識、自然を手がかりにして自分の周りを確実に捉えること等、まだすべきことがあるように思う。

○委員

シリウス完成からもう5年。我々の悲願だった芸文ホールでも公演できるようになったこと、感謝しかない。

「今後の大和市の文化芸術振興」

このテーマで委員会が立ち上がってもいいのではないかと。文化振興課はお仕事として今以上は大変だと思うが、行政と文化活動されている団体、個人の皆様とのパイプ役的な文化振興をもう一步踏み込んだ活動。同じ市民の立場から色々な方々との交流、情報交換、文化振興の底上げも兼ねて、活動されている方に寄り添うような感じ。

今回、笹倉鉄平版画ミュージアムと文化芸術未来賞受賞されたお二方とのコラボ素晴らしい。「文化人同士の繋がり」「文化人同士のコミュニティ」これからの時代、人との繋がり、色々な活動を知ることが大事かと思う。ART100であちこち行かせて頂いても感じた。もっともっと足を運ぶ大切さを痛感している。

「大和市北部と南部の文化交流」

私は大和市に来て約30年位になるが、地元、大和の文化にはほとんど興味がなかった。北部に住んでる関係上、文化的なものを求めるのであれば都内の方面へ行っただけ。10年前、この委員会に関わり、私自身何も大和の文化のこと知らずとしていなかったと（子どもミュージカルの活動だけで）反省。阿波踊り、よさこい…阿波踊りは小林委員に色々教えていただきながら、拝見した。よさこいは高座渋谷駅前一人で。大和市の南部にこんなに素晴らしい若者を中心とした文化があることにびっくりした。私の住むつきみ野地区の大きなお祭りは盆踊りくらいだろうか。でも人口が増えている北大和小学校エリアは若い人たちもたくさん。このつきみ野の盆踊りに、阿波踊り、よさこいの人たちが踊りを見たら、こちらの人たちは私のようにびっくりされ、大和市の文化に興味を持つのではないかと。子どもミュージカルは、活動に制限があるため、残念だが。

「高齢者と文化振興『70歳代を高齢者と言わない都市 やまと』」

現在有料老人ホーム（座間市内）で認知症ケア含めて高齢者の方々に文化振興を兼ねた介護を行っている。10年になる。終活に直面し体力も衰えていられる中、心を癒す文化の力はとても重要に思う。長生きしてよかった！と。（日々のレク、音楽レク、担当しながらホームへは子どもミュージカル、大和市、座間市の音楽家協会の友人にお願いしてコンサート等も開催している。より本物に近いものをと。）

△事務局

今後、引き続き、各委員から意見をいただきながら、文化振興課基本計画の振興管理及び改定を進

めていきたいと思います。

4 その他

○委員

昨年 11 月、シリウス創立 5 周年記念「小野リサコンサート」素晴らしかった。令和 3 年度つる舞の郷歴史資料館企画展、金子コレクション「幕末・明治の輸出工芸品」(パンフレットも)よかった。

○委員

「大和市」は、様々な国からいらした住民が多い。それぞれの国の「食文化」も文化芸術として捉えることが可能である。紹介だけではなく、もう少し掘り下げても良いように思う。散歩の機会を得て、「大和市」の自然を味わう機会があつて良いのではないか。昔は自然と芸術、文化は直結していたと思う。自然を失ってしまつてからでは遅い、と思う。